

文化の風が吹くまち ちくしの

文化薫道

◆其の五十五
筑紫

市の南東に位置する大字筑紫周辺は、昭和30年の町村合併で筑紫野町となる前、「筑紫」村という一つの自治体でした。筑紫村は、江戸時代の史料にもたびたび見ることが出来ますが、古くは室町時代までさかのぼることが出来ます。そして、この筑紫村と深いつながりを持つ一族がいました。その名は「筑紫」氏です。

「筑紫」の名字が最初に現れるのは応永7（1400）年の史料です。さらに、嘉吉（1441）年の史料には「筑紫村地頭職」として「筑紫下野入道」という人物が出てきます。この人物について詳しいことは分かりませんが、これが「筑紫氏」と「筑紫村」が同時に登場する最も古い史料です。当時の武士は、自分の所領の地名を名字として名乗ることが多く、筑紫氏の名字も筑紫村に由来するものと考えられます。

また、筑紫神社の社司を務めていたとされることも、筑紫村との深いつながりを感じる



筑紫氏が社司を務めていたとされる筑紫神社

じさせます。
一族にとって「筑紫」はとても重要な土地だったのではないのでしょうか。
戦国乱世を生き延びた筑紫氏はやがて所領替えて「筑紫」を離れることとなります。筑紫氏がこの地を去って約400年が経ち、「筑紫」の景色も随分変わっていますが、彼らが名乗った「筑紫」の名は今も本市に生き続けています。

問い合わせ先／文化財課

